慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アナログ・アナクロ・アナロジー：人文社会科学の知の再発見
Sub Title	Analogy, anachronism, and analogy : rediscovering knowledge in the humanities and social sciences
Author	川畑, 秀明(Kawabata, Hideaki)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は，文学部の総合講座である『アナログ・アナクロ・アナロジー』の開講を通して，曖昧なもの，デジタル化し得ないものの重要性や意義について議論を展開していくことを目的とし，オンデマンド配信型によるオンライン授業において，受講生やコーディネーターとともにコメント等を活用しながら議論を展開した。講師と主な内容は以下の通りである。 本間桃世（荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所所長）：死なないための住宅：荒川修作＋マドリン・ギンズの天命反転 加藤有佳織（本塾・研究分担者）：ノーマン・マクラレンとアニメーション，等 西田二郎（読売テレビ）：アイデアだけで生き抜け！まかない料理とヒットの絶妙な関係 直井里予（京都大学）：映像表現の限界と可能性 - タイ北部におけるHIV陽性者のドキュメンタリー制作からの考察ー 兎田幸司（本塾）：行動神経科学入門 相馬千秋（立教大学）：『集まる』芸術の未来 巽孝之（本塾・分担者）：病としての類比，等 佐川徹（本塾・分担者）：ナキナイに学ぶデモクラシー：東アフリカ遊牧民の「しつこさ」から考える 宇沢美子（本塾・分担者）：アナクロ日本が西欧の最新事情だった頃･･･，等 南波克行（映画評論家）：「宇宙戦争」をめぐって 時代との共振 H・Gウェルズ、パル、そしてスピルバーグへ 池澤春菜（声優・エッセイスト）：The SEIYU Workshop 佐伯栄一（作曲家）：デジタル的な芸術思考とアナログ的な芸術思考 和田有史（立命館大学）：食の認知科学 松田隆美（本塾）：書物におけるフィジカル・デジタル・アナロジー 深川宏樹（兵庫県立大学）：人類学における『現地の人々の視点』とは？一戦争の『敵』の社会的構築 嶋田美子（美術家）：「~になってみる」ージェンダー・パフォーマンス・ボディ さらに，本研究の構成員がそれぞれアナログ・アナクロ・アナロジーについて各自の研究分野の観点から研究を深めていくことができた。 The purpose of this study is to develop a discussion on the importance and significance of ambiguous things that cannot be digitized through the course of "Analog Anachronism, and Analogy", a general course in the Faculty of Letters. The lecturers were as follows. Momoyo Homma (Director, Shusaku Arakawa + Madeline Gins Tokyo Office) Yukari Kato (Keio University, the research member of this project) Jiro Nishida (Yomiuri TV) Riyou NAOI (Kyoto University) Koji Toda (Keio University) Chiaki Soma (Rikkyo University) Takayuki Tatsumi (Keio University, the research member of this project) Toru SAGAWA (Keio University, the research member of this project) Yoshiko Uzawa (Keio University, the research member of this project) Katsuyuki Nanba (Film Critic) Haruna Ikezawa (voice actress, essayist) Eiichi Saeki (Composer) Yuji Wada (Ritsumeikan University) Takami Matsuda (Keio University) Hiroki FUKAGAWA (University of Hyogo) Yoshiko Shimada (Artist) In addition, each of the members of this study was able to deepen their research on analogy, anachronism, and analogy from the perspective of their own research fields.
Notes	

Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000009-20200032

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2020 年度　学事振興資金（共同研究）研究成果実績報告書

2021 年 3 月 31 日

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	547　千円
	氏名	川畑 秀明	氏名（英語）	Hideaki Kawabata		

研究課題（日本語）

アナログ・アナクロ・アナロジー：人文社会科学の知の再発見

研究課題（英訳）

Analogy, Anachronism, and Analogy: Rediscovering Knowledge in the Humanities and Social Sciences

研究組織

氏　名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position
川畑秀明（Hideaki Kawabata）	文学部・教授
岡原正幸（Masayuki Okahara）	文学部・教授
巽孝之（Takayuki Tatsumi）	文学部・教授
宇沢美子（Yoshiko Uzawa）	文学部・教授
粂川麻里生（Mario Kumekawa）	文学部・教授
佐川徹（Toru Sagawa）	文学部・准教授
加藤有佳織（Yukari Kato）	文学部・助教

１．研究成果実績の概要

本研究は，文学部の総合講座である『アナログ・アナクロ・アナロジー』の開講を通して，曖昧なもの，デジタル化し得ないものの重要性や意義について議論を展開していくことを目的とし，オンデマンド配信型によるオンライン授業において，受講生やコーディネーターとともにコメント等を活用しながら議論を展開した。講師と主な内容は以下の通りである。
本間桃世（荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所所長）：死なないための住宅：荒川修作＋マドリン・ギンズの天命反転
加藤有佳織（本塾・研究分担者）：ノーマン・マクラレンとアニメーション，等
西田二郎（読売テレビ）：アイデアだけで生き抜け！まかない料理とヒットの絶妙な関係
直井里予（京都大学）：映像表現の限界と可能性－タイ北部における HIV 陽性者のドキュメンタリー制作からの考察－
兎田幸司（本塾）：行動神経科学入門
相馬千秋（立教大学）：『集まる』芸術の未来
巽孝之（本塾・分担者）：病としての類比，等
佐川徹（本塾・分担者）：ナキナイに学ぶデモクラシー：東アフリカ遊牧民の「しつこさ」から考える
宇沢美子（本塾・分担者）：アナクロ日本が西欧の最新事情だった頃･･･，等
南波克行（映画評論家）：「宇宙戦争」をめぐって　時代との共振　H･G ウェルズ、パル、そしてスピルバーグへ
池澤春菜（声優・エッセイスト）：The SEIYU Workshop
佐伯栄一（作曲家）：デジタル的な芸術思考とアナログ的な芸術思考
和田有史（立命館大学）：食の認知科学
松田隆美（本塾）：書物におけるフィジカル・デジタル・アナロジー
深川宏樹（兵庫県立大学）：人類学における『現地の人々の視点』とは？－戦争の『敵』の社会的構築
嶋田美子（美術家）：「~になってみる」－ジェンダー・パフォーマンス・ボディ
さらに，本研究の構成員がそれぞれアナログ・アナクロ・アナロジーについて各自の研究分野の観点から研究を深めていくことができた。

２．研究成果実績の概要（英訳）

The purpose of this study is to develop a discussion on the importance and significance of ambiguous things that cannot be digitized through the course of "Analog Anachronism, and Analogy", a general course in the Faculty of Letters. The lecturers were as follows.
Momoyo Homma (Director, Shusaku Arakawa + Madeline Gins Tokyo Office)
Yukari Kato (Keio University, the research member of this project)
Jiro Nishida (Yomiuri TV)
Riyou NAOI (Kyoto University)
Koji Toda (Keio University)
Chiaki Soma (Rikkyo University)
Takayuki Tatsumi (Keio University, the research member of this project)
Toru SAGAWA (Keio University, the research member of this project)
Yoshiko Uzawa (Keio University, the research member of this project)
Katsuyuki Nanba (Film Critic)
Haruna Ikezawa (voice actress, essayist)
Eiichi Saeki (Composer)
Yuji Wada (Ritsumeikan University)
Takami Matsuda (Keio University)
Hiroki FUKAGAWA (University of Hyogo)
Yoshiko Shimada (Artist)
In addition, each of the members of this study was able to deepen their research on analogy, anachronism, and analogy from the perspective of their own research fields.

３．本研究課題に関する発表			
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）